

「突然“被害者遺族”となって～9歳で生涯を終えた息子と共に歩む道～」

小学4年の息子は 通学途中 青信号の横断歩道で（ずさんな自己管理で不適切な服薬を行い意識障害となった）無謀運転の加害者に命を奪われました。

札幌市 西田 圭

〈資料1〉 「北海道新聞」2024年7月9日

北海道

# 運転中服薬で意識障害

## 札幌小4死亡で起訴の男

### 初公判 きょう

札幌市豊平区の市道交差点で5月、登校中に同区の小学4年西田倅さん（当時9）がワゴン車にはねられ死亡した事故で、自動車運転処罰法違反（過失致死）罪で起訴された同区の花田光夫被告（64）が糖尿病を患い、服薬による低血糖で意識障害に陥っていたことが8日、捜査関係者への取材で分かった。事故直前に道路脇のポールに衝突する物損事故を起こしていたことも判明し、低血糖状態で運転を続けていたとみられる。

### 直前にも物損事故

糖尿病の低血糖による交通事故はこれまでも相次いでおり、札幌地検は花田被告が事故を予見できたとして過失致死罪を適用。初公判は9日、札幌地裁で開かれる。

花田被告は10年以上前に2型糖尿病を患い、注射などでインスリンを投与していた。同被告の供述や症状などから、事故当時は服薬後で低血糖状態だったとみられる。

## 安全対策 運転者任せ

糖尿病は血糖値が高くなる病気。幼少期に発症が多い「1型」と、生活習慣などが影響する「2型」に分かれる。インスリン注射などで血糖値をコントロールが欠かせず、服薬後は血糖値が低く、食事やブドウ糖の

札幌市の小学4年西田倅さんがワゴン車にはねられ死亡した事故は、自動車運転処罰法違反（過失致死）罪で起訴された花田光夫被告が糖尿病の服薬後、低血糖の予防策を怠った状態で運転を続

け、輪禍を招いた。病気を患う運転者の多くが事故防止を徹底する一方、安全対策は本人任せの実情もある。倅さんの父親（49）は「ずさんな自己管理による交通事故を一度と起こさないでほしい」

と訴える。「わんぱくで、甘えん坊で…。いつも周りの人を笑わせた、倅がしゃべる場面が明るくなった」。3人兄弟の末っ子だった倅さんを、父親はそう語った。2人の兄にかわい

西田倅さんが背負っていたランドセルは、事故の衝撃で肩のベルトがき裂いた。「息子は救急車の中で痛い痛いと言っていた。どれだけ衝撃だったか」と父親は声を震わせる（写真：今日子撮影）



がられ、一緒にゲームをするのが大好き。小学3年からはバスケットボール教室にも通い始めた。名前には「人」を「幸」にする子になってほしいとの思いを込めた。事故後、同級生から届いた多くの手紙。「毎日見守ってね」「ずっと忘れない」「いつか会いましょう」。父親は「倅は人を幸せにし、人から幸せにしてもらった。なぜ、息子の命が奪われたのか」と悔やむ。

昨年夏、札幌市で50代女性が運転中に低血糖となり、交差点で車に追突し、対向車にもぶつかった。大阪市の御堂筋で2014年に車が暴走し3人が負傷した事故では、大阪地裁が被告に「低血糖で意識が低下する可能性は予見できた」と過失致傷罪で有罪判決を出し、最高裁で確定した。厚生労働省によると、糖尿病が強く疑われる人は推定約1200万人。5年前、糖尿病を発症した札幌市の会社員男性（29）は低血糖でめまいがする、長時間の運転は避け、症状が出れば必ず休憩する」と話す。

病院での服薬指導や運転免許の取得・更新時の申告などで対策が講じられているものの、チェックが十分とはいえない。滋賀医科大学の二杉正仁教授（社会医学）は「低血糖になると分かりながら漫然と運転を続けるのは危険。周囲が積極的に運転をやめるように助言する必要もある」と指摘している。

（三島今日子、高木乃梨子）

〈資料2〉  
北海道新聞  
2024年  
5月17日

# 登校の小4はねられ死亡

## 札幌 64歳男、容疑で逮捕

16日午前8時20分ごろ、札幌市豊平区月寒東4の17の市道交差点で、登校中に横断歩道を渡っていた小学4年西田偉さん(9)が同区月寒東3の16がワゴン車

# 事故5年で222人半数は横断歩道上

道内で登下校中に交通事故に遭った小学生が2019年からの5年間で、222人の上ったことが、道警のまとめで分かった。このうち半数が16日に札幌市豊平区で登校中の男子児童(9)がはねられた死亡事故と同様に、横断歩道上で発生しており、道警が注意を呼びかけている。

道内で登下校中に交通事故に遭った児童222人と、事故に遭った児童222人の内訳は、重傷が41人、軽傷は181人だった。全体のうち、横断歩道を渡っていた児童は107人で、横断歩道のない道路を渡っていた児童78人を上回った。死亡事故は15年6月以降、発生していなかった。今年の上下校中の事故で重軽傷を負った児童は今月

寒東3の17を現行犯逮捕した。

同署によると、現場は小学校から約150m離れた丁字路交差点。同署は目撃情報などから、花田容疑者のワゴン車が赤信号で交差点に進入したとみて調べている。花田容疑者は「信号をちゃんと確認していなかった」と供述しているという。

15日時点で、前年同期から3人減の6人だった。4月には札幌市中央区の横断歩道上で、小学1年の男児が乗用車にはねられ、足を骨折する重傷を負った。道警は「特に学校近くの横断歩道周辺では、前方をよく確認し、スピードを落として運転するよう徹底してほしい」と話している。(長瀬幸乃)

〈資料3〉  
北海道新聞  
2024年  
8月3日

# 小4死亡の事故 禁錮2年6カ月

## 札幌地裁判決 低血糖防がず運転

札幌市豊平区の市道交差点で5月、登校中の同区、小学4年西田偉さん(当時9)がワゴン車にはねられて死亡した事故で、自動車運転処罰法違反(過失致死)の罪に問われた同区、会社員花田光夫被告(64)の判決が2日、札幌地裁であった。加島一十裁判官は禁錮2年6カ月(求刑禁錮4年)を言い渡した。判決理由で加島裁判官は、糖尿病を患っていた花田被告が、医師の指示に反して、インスリン注射

射後の低血糖状態を防ぐために必要な食事をせず、に車を運転したと指摘。「運転すれば意識障害に陥る危険があることは明白。危険を軽視し、過失は重大だ」と述べた。弁護側は飲酒状態や無免許運転とは異なると主張し、執行猶予付きの判決を求めている。判決によると、花田被告は5月16日、運転中に横断歩道を渡っていた西田さんをはね、死亡させた。(古田裕之)

息子の犠牲を無にせず、被害根絶を求めて～社会に対する願い～

「病気が悪い」「お薬が悪い」のではなく、

『正常な運転ができない状態でハンドルを握る人間がいる』ことが諸悪の根源です

- ◆ 医療機関への願い：医師・薬剤師は薬物治療や処方を実施する際に、運転に支障が生じる可能性の説明だけでなく、「正しい服薬（副作用を回避する行動）ができる患者なのか」の判断を実施する（息子の事件で例えるなら、加害者は朝食を日常的に摂取しない食習慣がありながらインスリンが漫然処方されていたという背景があります）
- ◆ 警察への願い：違反・事故時の治療・服用歴確認の必須化（薬物の影響による不適切な運転が行われていないかチェックを強化）
- ◆ 行政：免許更新時の運転禁止薬・注意薬使用の有無及び運転注意薬使用者については医師所見提出の義務化